

なぜ日本人学生の英作文に受動態表現が多いのか？ ——学生の英作文からの考察と指導についての提案——

An Investigation into Why Japanese Students Frequently Write
Passive Voice Sentences and Suggestions on How to Help Students

木村 郁子

Ikuko Kimura

1. はじめに

大学でのライティング指導を通じて学生の書く英作文に受動態の文が多用されることに気付いた。それらの表現は、文法的に見て誤りではないが、ネイティブが普通使わない不自然な表現であることが多い。インターネットで、受動態についての問題を検索して見ると、学生に限らず一般的に日本人の書く英文には受動態が不自然に多く使われているとの指摘がある。「日本人の英語」(1988)の中で、マーク・ピーターセンも「現実問題として日本人の学術論文を見ると、受身の単なる使いすぎが実に目立つので、ここで受身の適度な使い方について考慮してみたいと思う。」としている(ピーターセン, p.140)。

そこでこの研究ノートにおいて、なぜ日本人が能動態にすべき文を受動態の文にしてしまうのかという問題について考察し、よりネイティブの書く英文に近い自然な英文にするにはどのような指導をしたら良いのかについて考えてみたいと思う。

まず、日本人が受動態を使いがちになる原因として私見やネイティブの意見などをもとにした4つの点について考察し、それらの問題を防ぐ方法を検討する。またネイティブの書く英文では、どのような割合で受動態が使われるのか、受動態の文には、ある程度使われる状況などにパターンがあるのではないかとすることについてTime Magazine[Kindle Edition]の記事を中心に調べ、より自然な英文を目指すライティングの指導に役立てたい。

2. 能動態の文がなぜ良いか

2.1 ネイティブの意見

英語では、能動態の文の方が受動態の文よりも良いということについてネイティブの意見として参考になるのが、You tube のActive Vs Passive Voice Part 3, A video Tutorial By Susan Montagである。このビデオの中で最初にMontagはThe St. Martin's Handbookから引用を引いて、能動態の文の方がいきいきとするのに対し、受動態の文はわかりにくく、責任回避のために用いているような印象を持つと述べている。

“Most contemporary writers use the active voice as much as possible be-

cause it livens up their prose. Passive-voice verbs often make a passage hard to understand and remember. In addition, writers sometimes use the passive voice to avoid taking responsibility for what they have written. A government official who admits that “mistakes were made” skirts the pressing question: made by whom?” (Lunsford, 2008, p.608)

またMontagは、自分で受動態、能動態の英文を作り、比較している。最初は受動態で書かれた例である。

A book written by the Dali Lama is called *Ethics for New Millennium*. A philosophy of peace was developed by him, and it is described in this book. Consideration of others should be used when making decisions, as said by the Dali Lama in this book. This is because suffering by others caused by us will eventually cause the suffering of ourselves (Montag, 2009).

Montagによると、この文は冗長で上手くない文である。これに対して彼女は能動態の文の方がわかりやすく、的確に情報を伝えることができ、必要ならば、関係詞などを使って詳細な情報を加えることもできるようになる、と言っている。上の文をそのように能動態の文を使って書き直したものが次の文である。

The Dali Lama, a spiritual leader who strives for world peace, authored a passionate book titled *Ethics for the New Millennium*, in which he calls for an ethical revolution. In this writing, his holiness describes his philosophy of peace, which he has developed over many years of meditation and thought. According to this philosophy, men and women should be considerate of others when they are making decisions. The Dali Lama says that this is a matter of common sense. “There is no denying that our happiness is inextricably bound up with the happiness of others,” he explains. When we cause others to suffer, he asserts, we are ultimately causing pain and suffering for ourselves because “... the more our hearts and minds are afflicted with ill-will, the more miserable we become” (Montag, 2009).

確かに、ダライ・ラマについてより詳細な情報や彼の言葉が引用文として挿入され、ダライ・ラマとその主張に興味を持たせる文へと変わっている。受動態の文でも同じように、ダライ・ラマの主張は表わされているが、簡単に終わっている。

2.2 学生による英作文の実例

次に挙げるのは実際筆者の授業で学生が書いた英作文である。筆者が、受動態の部分を残して、語彙などを修正してやや短くまとめた。

Jiburi's movies are loved by many people. I will tell you about three points. First, strong messages are put in their stories. "Prince Mononoke" has a message of nature's greatness, and "Tonarino Totoro" has a message of sisterly love. Second, pictures are very good. They are all drawn by hand. In addition, the color is vivid. Jiburi's staff are very skilled. Third, the music in the movies is impressive. "Legend of Ashitaka" is one of the most famous songs. It is composed by Hisaishi Joe. His melody is relaxing and expresses each story. He composed almost all the main theme songs of Jiburi's movies. In conclusion, Jiburi's movies have some emotionally moving elements. These works will be loved by a lot of people forever.

この学生はパラグラフの形をなして、文法上正しい英文を書いているが、受動態と言う問題に焦点をあてて見ると、全部で124wordsの本文のうち5回受動態を使用している。大体25wordsで1回受動態が出て来ることになる。最初の受動態もネイティブに尋ねたところMany peopleを主語として能動態の文にする方が普通である。この学生は、「皆に愛されている。」「メッセージが込められている。」など、日本語から直訳して、受動態の文を書いたようだ。また、後で述べるが、ネイティブの英文では、行為者がはっきりとわかっている場合でby~をつけて受動態の文にすることは少ない。次に挙げるのは、もう少し英文を書くことに慣れていると思われる学生の英作文である。

Will Smith who is a movie star in the U.S. has enjoyed great popularity for a long time. I am also a big fan of his. The biggest reason for his public appeal is that he has played the leading roles in many popular movies such as "Bad Boys," "Independence Day," and so on. So he has won the Academy Award once. He can also sing very well. Surprisingly, his job was not the movie actor at first. He used to be a singer who loved rap music. One day, one movie director suggested he perform on TV. Then, the TV drama which he had performed in became a hit with so many people in America. Last but not least, he is incredibly smart. He was so clever that he was accepted to MIT without entrance examination. In short, I think that his popularity will surely last for another decade as many young people have been discovering his irresistible charm.

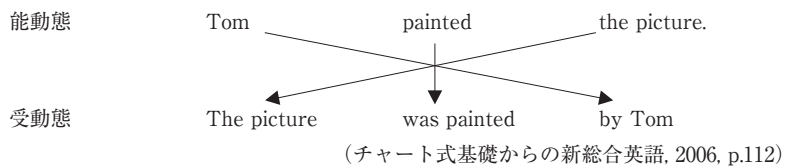
この学生は1回しか受動態を用いていないし、その表現は受動態として普通使用されるもので、適切である。また能動態で書いているが故に、Montagの言うように関係詞節等での補足説明が可能になり、より多くの情報が一文で伝えられている。また最初から最後まで、中心となる人物が主語で変わらずわかりやすい。

学生たちは、文法的に正しければ能動態、受動態どちらで書いても同じだと思っているようだが、より読者にわかりやすく、読者をひきつける英文は、能動態を用いた方が良いと指導すべきである。

3. 日本人が受動態をよく使う理由

3.1 中学校、高校での書き換え練習

なぜ日本人学生が受動態の文を良く書くか最初で思い当たる原因は中学校、高校時代の受動態の学習の仕方である。一般に中学校で初めて受動態を導入する場合、次のような図を示して、能動態の文から受動態の文への書き換えと言う形で説明されていることが多い。



この図からは、能動態、受動態ともに意味は同じだが、視点が変わったために文の形が変わったと言うことしか理解できない。そして、受動態と言う形に重点を置き、その形を覚えさせるための練習を繰り返し行う。結果として、練習を重ねた学生は受動態の形を覚え、間違いなくその形を作ることができるようになる。しかしその練習過程で、またしばしばコンテキストから切り離されてバラバラに出現する例文を見るうちに、なぜこの文を受動態で書いたのかと言う点が、学生に伝わって来なくなる。能動態ではなく受動態で書く理由としては、アクションを起こした人や物よりも、アクションを起こされた人や結果の方が重要であるとか、アクションを起こした人がわからない、または明らかにしたくない、あいまいにして責任逃れをしたいなどの意図が挙げられる。能動態の意味をもとにして受動態を導入すると、このような受動態の意味上の違いは学生に伝わりにくい。

さらに、塾、あるいは市販の問題集などでも、「次の文を受動態の文に変えなさい。」や逆に「能動態の文に直しなさい。」と言う指示のもと、能動態から受動態、受動態から能動態への書き換え練習が良く行われる。このやり方は、形を覚えるには有効であるが、ますます学生は、能動態で書いても、受動態で書いても全く同じと言う錯覚に囚われてしまう。しかも書き換えによる能動態、受動態の意味が必ずしも一致しない場合がある。(戸田, 1993, p88) 戸田による一致しない例を数例挙げると次のようなものである。

(a) Beavers build dams. ————— Dams are built by beavers.

(b) Everybody in this class speaks three languages. —————

————Three languages are spoken by everybody in this class.

(c) Many men read few books. —————Few books are read by many men.

(d) Many of the arrows didn't hit the target. —————The target wasn't hit by many of the arrows.

(e) John loves his wife. ————— His wife is loved by John.

戸田によると「(a) では、名詞の総称の問題で、beaverの習性としてはなりたつても、damの習性としては成り立つかどうか。(b)は不定代名詞と数量詞の、(c)、(d)は、数量詞と否定詞のscopeの領域がからむし、(e)は、hisがJohnを指さない場合に知的意味が異なる」とある。そして「これらの問題は単なる書き換えという機械的な操作の習熟にのみとらわれていると、気づかれずに見逃されているのが実状である。それぞれ単独に提示されれば、気づくべき特徴であるが、受動文が与えられたときに、対応する能動文を意識したりすると、本来なら気づくべき意味の相違が、書き替えによる同じ意味の文という前提がでてくるので、英語学力上、マイナスの要因になることもあり得る。」(戸田, 1993, p. 89) とある。

このように書き換え問題は、能動態で書いても、受動態で書いても意味が全く同じと言う誤解を招くので、繰り返しの練習は避けるべきだろう。

3.2 主語を省略する日本語の影響

受動態と言う文法事項を形としてしっかりマスターした学生が、自分で英文を書く時に、つい受動態の文を書いてしまう原因として、日本語の影響があると思われる。日本語では主語の省略を良くするので、日本語の思考で文を考えると、得てして最初に頭に浮かぶ言葉が目的語である。例えば「あなたの家ではペットを飼っているの?」と言う質問文を想定して答えようとする、「犬を飼っているよ。」と言う答えを日本人なら思い浮かべると思う。これを英語で答えようとする、「A dog.」でも良いわけだが、英文に慣れていない学生が英文を作ろうとする、目的語を先に思い浮かべたので、あとに続く部分が必然的に受動態になる。結果として A dog is kept in my family.と言う英文を作ってしまうのである。これは先にも述べたように、能動態と受動態が同じ意味だと思った結果、目的語の方から書いても良いだろうとして出来た文である。実際自己紹介文の中でこのような英文を書いた学生がいる。また、似たような例で「ソーシャルネットワークで友達を容易に作れる。」と言う場合 Friends can be made easily on social networks.と書いた学生がいた。

英文を書く時には、主語を省略する日本語の思考から離れなければならない。そのためには、普段から英文を書く時には必ず「誰(何)が~をする」と言う形を思い浮かべるようにと言う練習をさせるべきである。英語を習い始めたばかりの時は、受動態を教えるよりも、能動態の文章を多く書かせたり、言わせたりするべきである。そうして英語の文の主語+動詞の基本形が自然と頭に浮かぶようにすべきである。またネイティブによって書かれた英文を多読することによって、ネイティブが普段使っている英語の表現を覚えることが必要である。

3.3 無生物主語がアクションを起こさない日本語の影響

英文を書く時に受動態にしてしまうのは、一般に日本語では、無生物主語が他動詞をとって目的語に何か行為ををすると言う文は考えにくいので、無生物を主語にすると、行為をされる対象だと考えるのも原因の一つだろう。無生物主語を使った文で学生の書いたものに、次のようなものがある。

The gate is opened at eight a.m.

Ooi nuclear power plant was stopped generating electricity.

これは訂正すれば

The gate opens at eight a.m.

Ooi nuclear power plant stopped generating electricity.

となるだろう。英語では無生物が主語になってアクションを起こす文を作ることができるので、受動態の文にして、アクションを起こされる文にしなくても良い。前者では自動詞のopenが使えるし、後者では目的語を取る他動詞も使える。前者のような例では、日本語でも「門が開く」と無生物主語+自動詞の形で文を作ることができる。英語の中でどの自動詞が日本語と同じような使い方ができるのかを学習すれば、無用に受動態の文をつくらなくてすむ。そして無生物主語を使った方が英語らしい表現になる。これらの動詞は、それほど多くはないと思われるので、どのような自動詞が日本語と同じように文を作るのかを比較調査することも今後の研究課題とする必要がある。

自動詞にせよ、他動詞にせよ、無生物主語の英文を作るのは、日本人にとって難しい。無生物主語の英文を書けるようにするには、やはり多くの英文を読み、客観的な内容を無生物主語で提示する文に慣れる必要がある。また、中高で習った受動態の形式にあてはめて作った英文が必ずしも正しいものになるとは限らないと言うことを大学において指導すべきである。

3.4 人間中心ではない日本語の影響

ネイティブから、日本人は相手に面と向かって直接的な言い方をすることを避けるので、受動態の表現を良く使うのだろうと指摘されたことがある。これは、日本語では「誰が」その行為をするのかを言わず、責任の所在を明確にしないと言うことだろう。日本語では、先にも述べたように主語を省略すると、受動態にしなくても十分に直接的な表現を避けることができるので、受動態と言う形は英語よりずっと少ない。実際日本語で書かれた新聞記事に、どれくらいの割合で日本語の受動態が出現するのかまた、行為者のない文が出現するのかを調べてみた。

8月18日付、朝日新聞一面の記事「日中韓きしむ関係」において、文章総数36文に対して受動態の文が使われたのは、2文。領土問題の記事は、力強い表現にするために、故意に受動態が少ないのかもしれないと思い、他の経済面の記事や、社説、一般の人からの投

書と言った日本文も調べてみた。その結果、経済面の「経営手法企業が指南 につぼんの農業 消費流通編」では全33文のうち受動態は、2文であり、社説の「予算編成 政権の覚悟が見えない」では、全23文のうち受動態の文は1文だった。一般の人々の投書ではもっと出現率は低く、「若い世代」のコラムに載る4人の人達の書いた文、全51文のうち、受動態の文は、たった1文だった。

また能動態の文で特定の個人である「誰が」が抜けて行為者のない文の数は、「日中韓 きしむ関係」で23文、「につぼんの農業」で28文、社説は23文全文、投書では筆者が主語であることが明白なので、45文だった。これらの記事の中から日本文を少しあげて見ると、「につぼんの農業」における「2年間の全寮制の校舎は東京品川に置く」や、「賛同者はすぐに見つかった。」など、誰がアクションを起こしたのかわかりにくい。これらを英文に直せと言え、「～は」の部分の主語にする学生が多いと思うが、そうすると受動態になってしまう。大学1年生が英作文を書く時、よく日本文を考えてから英訳するので、このような思考過程で受動態の文が書かれるのだろう。

日本文は前後の内容から大体想像できるので主語を省略していると良く言われるが、私は日本語では、「誰が」したのかという人間中心の見方より、結果として「どうなったか」という事実を重視することが多いのではないかと思う。それで事実のみを述べ、行為者を明確にしないのではないだろうか。池上は『「する」と「なる」の言語学』（1981）の中で、次のように述べている。

「能動態、受動態という対位は、論理的な観点からしばしば想定されるような<する>と<される>という関係に本質があるのではなくて、むしろ<する>と<なる>という関係に立つものとして捉える方が正当であろうということである（池上1981, p. 234）。」

「する」言語で人間中心の英語と、「なる」言語で状態中心の日本語の本質的な違いから、日本文をもとに英文を考えると「なる」状態の英語の受動態文が出来やすくなるわけである。日本語、英語のこのような本質的な違いは、文化的な違いから来るものであろうが、日本文のイメージから英文を作ろうとすることには無理があるということも、学生にも認識させるべきである。

4. ネイティブの書く英文における受動態

4.1 ネイティブの書く英文における受動態の出現率

これまでなぜ受動態よりも能動態の文を書くべきか、なぜ日本人が受動態の文を書きがちなのかについて述べて来た。しかし、英語でもすべての文が能動態で書かれているわけではない。英語思考になることが一番だが、学生がそうなるには、多くの英文を読むことが必要であり、時間がかかる。目安としてどのくらいの割合で、どのような状況でなら受動態が使われても良いかということが分かれば、指導しやすいし、学生も理解しやすい。

次に英文におけるネイティブの書く英文に受動態がどのくらい出現し、どのような動詞がどのような状況で受動態として使われやすいかについて、Time Magazine[Kindle Edition]の記事を使って調べてみた。

Time Magazine[Kindle Edition]の記事をサンプルとして取り上げたのは、これらの英文は、今日英語を母語とする国で書かれているもので、ジャーナリストの書く文は多種多様な事柄についてわかりやすく情報を伝えることを目的とし、良い文として一般的に認められており、私たちが手本にしても良いと考えるからだ。また、受動態の文がどのように使われているのかを見るため、なるべく受動態の文が多く使われている英文を集める必要があった。ニュース記事は客観的な立場で書き、行為者の名前を伏せたり、行為者のわからない事件などについても扱っていて、主語を抜いた文を書かざるを得ないのではないかと思われる。数え方であるが、電子版のため記事の最初に総語数が書かれてある。それに対し、受動態の形が出て来た個所の数を数えて割ったので、大体何語につき一度受動態の形が出てくるのかを調べたことになっている。この受動態の形は、分詞構文として過去分詞のみで出て来たものは、含んでいるが、過去分詞が形容詞化して、他の形容詞と共に並べられて使われているものは、感情表現（感情表現は、受動態の中で教えられるので）以外を除外し、be動詞+過去分詞の形で出て来たものを数えた。また、すべての記事ではなく、cover storyとcommentaryのみを取り上げている。結果は以下の通りである。出現率のところは小数第一位で四捨五入し、何語で一度受動態が使われるかを示している。

表 1 Time Magazine[Kindle Edition] の記事における受動態の出現度

日付	タイトル	総語数	受動態数	出現率
Jul 23, 2012	The War on Suicide	5,341	36	148
	How Barclays Rigged the Machine	799	12	66
	Tax and Spend	743	4	186
Jul 30, 2012	Rivalries	922	2	461
	Lolo's No Choke	3,568	11	324
	Flip Artist	2,168	4	542
	She's Feeling Lucky	758	7	108
	Why Bain Matters	780	9	87
	Of God and Gays and Humility	753	7	108
Aug 6, 2012	How The Gun Won	2,718	17	160
	Rise of the Smart Grid	659	0	659
	Failure to Launch	751	8	94
Aug 13, 2012	A Rich Man's Game	2,012	9	224
	Two Men, Two Weak Spots	774	6	129
	To Ease or Not to Ease	785	9	87
Aug 20, 2012	Live from Mars	3,132	15	209
	The Case for Gun Control	760	10	76
	The Trouble with Simpson-Bowles	765	7	109

Aug 27, 2012	Making Sense of Our Wireless World	467	3	156
	Paul Ryan's Grand Vision	776	9	86
Sep 3, 2012	It's the Stupid Global Economy	782	5	156
	Who will Mitt Speak to?	763	3	251
	Is Romney a Realist or an Idealist?	780	5	156
Sep 10, 2012	The Interview	1,240	6	207
	Obama Plays Hard Ball	3,194	21	152
	One for All and All for One	783	7	112
	A Bright, Shining Lie	759	5	152
Sep 17, 2012	One Nation On Welfare. Living Your Life On The Dole	3,612	11	328
	The Heirs of Reagan's Optimism	744	5	149
	Paralysis Rules	783	7	112
Sep 24, 2012	Flash Point	2,339	35	67
	An Awkward Strike	639	4	160
	The Mitt Mirage	768	6	128
Sep 24, 2012	The S&P Soars, The Economy Snores	757	2	379
			平均	192

記事によって受動態が出て来る頻度にばらつきがあるが、頻繁に出て来たとしても70語に一度くらいなので、学生が書く200語くらいのエッセイでは、普通1回多くても2～3回と言うことになる。しかも、これはほとんど受動態でしか使わない感情表現や慣用表現を含んでいる。また、タイムの記事であることからフォーマルな表現も多く、通常の英文よりも受動態が多いのではないかと考えられる。同じ記者であっても、記事によって受動態の使用数は変わっていた。記事の内容がポジティブなものでは能動態が多く、事件や法的規制などがからんだものでは、受動態が多くなるようだった。

4.2 受動態はどのような場合に使用されるか

「日英語の比較と英語教育」(早川, 1985)の中で早川は、次のように述べている。

「学校文法では、動詞が他動詞の場合に受動態の文に転換できると教える。しかし、他動詞とは何か、それと関連して、目的語とは何か、受動態はどの動詞の時に可能か、などの問題について考察を深めるならば、上のような定式化が厳密でないことはすぐわかる(早川, 1985, p. 236)。」

そこでまず、上の記事について、どのような動詞が受動態として使われているかを調べてみた。その結果、感情表現や慣用表現など、受動態として使用されることが多いものを除いて、はっきりとどの動詞なら受動態で使われると言う線引きは難しいように思われた。むしろ動詞に注目するより、受動態が使われる状況に注目した方が能動態で書くべきか、

受動態で書くべきかの判断の基準になるように思われた。そこで以下に感情表現や慣用表現ではない場合で、受動態が使われる主な状況とTime Magazine[Kindle Edition]の記事の中で出て来た実例を挙げてみる。

- (1) 軍などの組織や、法律、規則などで行為を受けざるを得ない場合で、誰が行ったのか、はっきりしない場合や、はっきりさせたくない場合。by～による行為者を示す表現はない。

- ・ I was given difficult tasks, and moved through the ranks quickly.(Thompson and Gibbs, 2012)
- ・ Morrison tried to enroll in an Army sleep study, but was told he couldn't join for a month. (Thompson and Gibbs, 2012)
- ・ LIBOR is calculated not on the basis of documented lending transactions but on the banks' own estimates. . . (Feroohar, 2012)

- (2) 事件などで行為者がわからない場合。by～による行為者を示す表現はない。

- ・ His base was routinely mortared.(Thompson and Gibbs, 2012).
- ・ Stevens, foreign service officer Sean Smith and two others were killed.(Ghosh, 2012).

- (3) 行為を受ける者の方が行為をする人よりも重要な場合。時にはby～で行為者を示すこともある。

- ・ Obama was asked a question about his campaign's first round of attacks on Bain . . . (Klein, 2012).
- ・ Bank of England and former British-government officials accused of colluding with Barclays to stem a financial panic may also be caught up in the mess (Feroohar, 2012).
- ・ Muhammad remains always off camera and is never heard, . . . (Ghosh, 2012).
- ・ He had worked closely with the leaders of the uprising against Muammer Gaddafi and was well liked by most Libyans(Ghosh, 2012).

- (4) 多くの人によってなされていて、特定の人によってされた行為ではない場合。by～による行為者を示す表現はない。

- ・ While only 10% of global GDP is traded online, that number will likely rise to 50%.....(Feroohar, 2012).

- ・ He called for a “national conversation” about “everything from the merits of gun-safety laws to the adequacy of our mental-health system,” and he asked that it be conducted with civility (Klein, 2012).
- (5) 行為者は重要ではなく、注目すべきは行為を受けた後の結果や状態の方である場合。これが一番出現率が高いようだった。感情表現などもこの部類に入ると考えられる。by～による行為者を示す表現はない。
- ・ And those who seek help are often treated too briefly (Thompson and Gibbs, 2012).
 - ・ . . . his oldest son, who was 3, was diagnosed with leukemia (Thompson and Gibbs, 2012).
 - ・ We’re already short-staffed (Thompson and Gibbs, 2012).
 - ・ But Lochte and Phelps are linked together like Olympic rings. (Park, 2012)
- (6) 先行文から後続の文の内容が予測可能であり、先行文の内容の中心的部分に関連する要素を、その関連性を引き継ぐために、先行文に最も近い主語の位置に置く場合。by～による行為者を示す表現はない。
- ・ He goes by the name Sam Bacile, but almost nothing is known about him (Ghosh, 2012).
- (7) 主語に来るものが「行為をされる」ということを強調したい場合。by～による行為者を示す表現がある。
- ・ Independent investigation have turned up reports of soldiers being told by commanders to airbrush their answers or else risk their careers (Thompson and Gibbs, 2012).
 - ・ The thread was picked up in Egypt by a TV host. . . (Ghosh, 2012).
 - ・ . . . technology has moved from being an industry in which innovation is driven by business users to one in which innovation is driven by individuals. (Foroohar, 2012)

これらは上のTime Magazine[Kindle Edition] のCover Story とCommentaryの記事10週分の英文で受動態として現れた文である。ほんの一部の英文から取り出したもので、サンプルとしては不十分である。より広範囲の英文を調査すれば、他に受動態がどういう状況で使われるか、より正確にわかるのではないと思われる。これは今後の研究課題で

もある。

5. 結論

明確で情報を満載して、いきいきとした英文は、能動態で書くべきであるが、なぜ日本人が書く英文に、受動態が多く不自然な感じになるのかと言う問題について、4つの点について、考察して来た。原因として考えられる4点は以下の通りである。

- (1) 中学、高校での受動態の学習で、形だけの重視や、書き換え練習によって、学生の側に能動態と受動態が等しい意味で交換可能であるような誤解をさせていること。
- (2) 日本語の特性から来る主語を抜かして文を作る癖があること。
- (3) 日本語の特性から無生物主語を使った能動態の文を作りにくいこと。
- (4) 行為者をあげずに状態を表す日本語をそのまま直訳をして英文をつくらうとすること。

これらの問題点を学生にも認識してもらい、自ら英文を書く時に注意を促す必要がある。また、手本となるネイティブの書く英文中、どのくらいの頻度で、どのような場面で受動態が使われるのかを、Time Magazine[Kindle Edition]の記事を使って調べてみた結果わかった事は以下の通りである。

- (1) 受動態を多く使っても70語に1回くらいの割合にすべきである。
- (2) 多くの場合、特定の誰かによってなされた行為なら、その行為者を主語にして能動態の文にした方が良い。行為者が明確でない場合や、行為を受けたあとの状態の方が重要である、または主語を強調したい時に受動態を使うようだ。その場合by～はつけない。
- (3) 時に行為者がわかっても、行為を受ける者が行為者よりも重要であったり、行為を受けたことを強調したい時にはby～をつけて受動態にするようだ。

これらの結果については、もっと広範囲での調査が必要である。だが、大学でのライティングの指導に際して、今回の研究結果を踏まえて、学生の英文がよりネイティブの書く英文に近付くよう、英文の考え方、日本語の考え方の違いを説明し、受動態と能動態は決して同じ意味として使われるわけではなく、受動態が使われる場面はむしろ限られていることを学生に示す必要があると思われる。

参考文献

- 安藤貞雄 (1986) 「英語の論理・日本語の論理：対照言語学的研究」東京：大修館書店
- 早川勇 (1985) 「日英語の比較と英語教育」東京：三友出版社
- 池上嘉彦 (1981) 『「する」と「なる」の言語学：言語と文化のタイポロジーへの試論』東京：大修館書店
- 石黒昭博 (監修) (2004) 「総合英語FOREST [4th Edition]」東京：桐原書店
- 國廣哲彌；中野道雄 (1982) 「発想と表現」『日英比較講座』4、東京：大修館書店
- Lunsford, Andrea A.(2008). *The St. Martin's Handbook 6th ed.* Boston: Bedford/

St.Martin's

文部科学省編 (2008)「中学校学習指導要領」京都：東山書房

仁田義男編 (1991)「日本語のヴォイスと他動性」東京：くろしお出版

澤登春仁 (1972)「日英受動態の比較研究」『山梨大学教育学部研究報告 第一分冊 人文社会科学系』23、51-59

高橋潔；根岸雅史編 (2006)「チャート式基礎からの新総合英語」東京：数研出版株式会社

戸田征男 (1993)「受動態指導再考」『Annual Review of English Language Education in Japan』4、87-96

ピーターセン、マーク (1988)「日本人の英語」東京：岩波書店

参考ウェブサイト

Montag, Susan. "Active vs Passive Voice Part 3, A Video Tutorial By SusanMontag," [YouTube](http://www.youtube.com/watch?v=7sYNSROJ6648&feature=plcp) 29Mar. 2009. 20Aug. 2012 <http://www.youtube.com/watch?v=7sYNSROJ6648&feature=plcp>

用例資料

朝日新聞 「日中韓きしむ関係」、「経営手法企業が指南 につぼんの農業 消費流通編」、「予算編成 政権の覚悟が見えない」、「若い世代」 2012年 8月18日付

Foroobar, Rana. "How Barclays Rigged the Machine." *Time [Kindle Edition]* Time, Inc., 23 July 2012.

Foroobar, Rana. "She's Feeling Lucky." *Time [Kindle Edition]* Time, Inc., 30 July 2012.

Ghosh, Bobby. "Flash Point." *Time [Kindle Edition]* Time, Inc., 24 September 2012.

Klein, Joe. "Why Bain Matters." *Time [Kindle Edition]* Time, Inc., 30 July 2012.

Klein, Joe. "How The Gun Won." *Time [Kindle Edition]* Time, Inc., 6 August 2012.

Park, Alison. "Rivalries." *Time [Kindle Edition]* Time, Inc., 30 July 2012.

Thompson, Mark and Nancy Gibbs. "The War on Suicide?" *Time [Kindle Edition]* Time, Inc., 23 July 2012.